

農 研 速 報

麦の生育状況(6月26日現在)

地域名	麦種(品種)	生育ステージ	対平年遅速	生育(作柄・品質)概況等	備 考
水 戸	11月6日播種 小麦 (さとのそら)	収穫終了	(成熟期) 平年並 (0日)	生育状況(過去5年間の平均値との比較) (11月6日播種) ●さとのそら: 収量(整粒重)は52.5kg/aで平年並だった。 千粒重はかなり軽く、容積重は平年並、タンパク質含有率は低かった。 ●カシマムギ: 収量(整粒重)は35.6kg/aで平年よりかなり軽かった。 千粒重・容積重は平年よりかなり軽く、タンパク質含有率は平年並だった。 ●カシマゴール: 収量(整粒重)は35.0kg/aで平年よりかなり軽かった。 千粒重は平年よりかなり軽く、容積重は軽く、タンパク質含有率は低かった。 (11月20日播種) ●さとのそら: 収量(整粒重)は45.5kg/aで平年並だった。 千粒重はやや軽く、容積重は平年並、タンパク質含有率はかなり低かった。 ○本年は特に大麦において、一穂当たり稔実粒数の低下、千粒重の低下が見られた。 原因は暖冬傾向であったことに伴う過剰分けつ、3月の低温に伴う幼穂凍死や黒節病の発生、 4月の降雨+高温に伴う赤カビ病の発生(微発生)等、複数の要因が重なった為と考えられる。	・「対平年遅速」は成熟期を基に表記した。
	六条大麦 (カシマムギ)	収穫終了	平年並 (0日)		
	(カシマゴール)	収穫終了	平年並 (1日早い)		
	11月20日播種 小麦 (さとのそら)	収穫終了	平年並 (1日早い)		

表 畑における生育(水戸市 茨城県農総セ農研 作物研究室)

播種期 (月・日)	麦種	品種名	成熟期			登熟日数			稈 長			穂 長			穂 数		
			本 年 (月・日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本 年 (日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)
11.6	小麦	さとのそら	6.06	+1	0	53	-2	-1	84.6	93	100	8.5	100	102	580	102	94
		カシマムギ	5.23	+2	0	45	-1	-2	85.3	96	101	4.2	95	100	517	90	97
	六条大麦	カシマゴール	5.22	+2	-1	48	0	0	85.3	99	100	4.2	83	100	615	120	106
11.20	小麦	さとのそら	6.07	0	-1	51	-3	+2	81.0	94	104	8.7	106	113	575	95	100

播種期 (月・日)	麦種	品種名	粗子実重			整粒重			千粒重			容積重			タンパク質含有率		
			本 年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (g)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (g/L)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (%)	前 年 (%)	平 年 (%)
11.6	小麦	さとのそら	53.4	91	103	52.5	91	103	36.1	90	91	833	99	100	10.7	92	93
		カシマムギ	44.8	70	80	35.6	61	72	28.7	92	91	672	93	94	9.8	91	99
	六条大麦	カシマゴール	47.7	68	78	35.0	58	65	27.0	91	88	704	96	96	9.0	91	91
11.20	小麦	さとのそら	46.3	86	103	45.5	85	103	37.0	91	95	835	99	100	10.6	91	89

耕種概要 1)圃場(来歴):表層腐植質黒ボク土(前作休耕畑) 2)播種量:0.8kg/a
3)施肥量:N-P₂O₅-K₂O=0.6-0.6-0.6kg/a 4)播種様式:畦幅30cm、シーダーテープ播種
5)平年値:平成30年~令和4年播種の結果の平均。 6)麦踏み:12月18日(11月6日播種)、12月27日(11月20日播種)、1月26日、2月15日
7)登熟日数:出穂期から成熟期までの日数。出穂期の翌日から起算。 8)整粒重:小麦は2.3mm、六条大麦は2.2mmの篩上の子実重。
9)千粒重・容積重・タンパク質含有率はグレーダー調製後の整粒で計測した。 10)粗子実重・整粒重・千粒重は、小麦が水分12.5%、六条大麦が水分13.0%換算値。
11)タンパク質含有率は近赤外線多成分分析機(インフラテック1241型)による。水分13.5%換算。

生育状況における表現について

平年値(過去5年間の平均値)との違いの程度を、「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」等の階級区分で表しています。
 各階級の幅は、下図のように、統計期間における出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めています。
 さらに、「低い(少ない)」、「高い(多い)」については、補足的表現として下図に示す出現率となるように「やや」、「かなり」と表しています。

